

平成27年度第1回 高砂市文化振興審議会

日 時 平成27年11月 5日(木) 15:30～  
場 所 高砂市役所西庁舎4階 会議室

出席委員	会 長	田端 和彦	委 員	唐津 哲男
	副 会 長	岩見 一美	委 員	高橋 賢吉
	委 員	原 英俊	委 員	前田 栄一
	委 員	天野富美男	委 員	松本 克英
	委 員	渡邊 紀子		

欠席委員 委 員 森本 幸吉  
代理出席者 ●●●●●

出席事務局職員

副 市 長	富田 康雄
健康文化部長	岸本 修
健康文化部 くらしと文化室長	福原 裕子
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課長	森岡 修平
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課主幹	前川 吉也
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課係長	山野 晃路
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課主任	中谷 悟史
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課係員	大塚 敦子
教育部教育推進室長	木村 敏郎
教育部教育推進室生涯学習課長	岡田 敏弘

協議事項

- 1 開 会
- 2 あ い さ つ

- 3 委 員 紹 介
- 4 審 議 会 会 長、副 会 長 の 選 出
- 5 議 題
  - (1) 高砂市文化振興審議会の運営に関する規程の一部を改正する規程を定めることについて
  - (2) 平成25年度・平成26年度実施計画の評価及び検証について
  - (3) 平成27年度事業について
  - (4) 文化施策に関する市民アンケート（案）について
- 6 そ の 他
  - (1) 各団体の活動報告
  - (2) 今後のスケジュール
- 7 閉 会

(午後 3時30分 開会)

○事務局

それでは、開会に先立ちまして、副市長から委員の皆様方に委嘱状の交付を行います。  
副市長、よろしくお願いいたします。

(委員委嘱状交付)

○事務局

審議会を進行する前に、当審議会の公開についてですが、高砂市文化振興審議会の運営に関する規定に基づき、公開とさせていただきます。また、本日傍聴希望者1名がおられますので、よろしくお願いいたします。

さて、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中出席いただきましてありがとうございます

まず、お手元の資料の確認をお願いいたします。

(資料確認)

続きまして、会議の進行について、ひと言お断り申し上げます。

この審議会の議事は、会長が議長として進めることとなっておりますが、このたび、新たに委員委嘱をさせていただきましたので、会長、副会長が決定されるまで、事務局が会議の進行を行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第により進めていきたいと思っております。

まず、開会に当たりまして、副市長よりご挨拶を申し上げます。

副市長、よろしくお願いいたします。

○副市長

(副市長 あいさつ)

○事務局

ありがとうございました。

次に、次第の3番目、今回、審議会に委嘱してお願いいたしました方々につきましては、名簿をお配りしております。このたび、新たに委員をお引き受けくださった方もおられますので、名簿順に、簡単に結構ですので、自己紹介のほうをお願いしたいと存じます。

(委員 自己紹介)

○事務局

ありがとうございました。

次に、事務局の紹介に移ります、委員同様、簡単に自己紹介をお願いいたします。

(事務局 自己紹介)

○事務局

ありがとうございました。

引き続きまして、次第の4番目、会長、副会長の選出を行います。

会長、副会長については、審議会規則第4条に、審議会に会長及び副会長を委員の互選によって、これを定めるとあります。

皆さんの中で、互選によって会長、副会長のご選任をお願いしたいと思います。

自薦、他薦は問いませんので、この場でお声かけをいただければと思いますが、いかがなものでしょうか。

(声あり)

○事務局

異議はございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○事務局

続きまして、副会長のご選任でございますが、いかがなものでしょうか。

○委員

(声あり)

○事務局

委員、よろしいでしょうか。

○委員

はい、未熟者ですが、どうぞよろしくお願ひします。

○事務局

よろしくお願ひします。

それでは、就任されました会長と副会長は、前の席においでいただきます。

それでは、会長、副会長に、ここでひと言ご挨拶をお願いしたいと存じます。

○会長

(会長 あいさつ)

○事務局

副会長、お願ひします。

○副会長

(副会長 あいさつ)

○事務局

ありがとうございました。

本日の会議ですが、出席者9名、欠席者1名により、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため、会議は成立していることをご報告いたしまして、次の5の議題のほうに移ります。

ではこれより、議事進行は会長をお願いしたいと思います。

会長、よろしくお願ひいたします。

○会長

それでは、議事次第に従いながら進めさせていただきます。円滑な議事の進行にご協

力いただきますよう、お願い申し上げます。

最初の議題でございますけども、まず、高砂市文化振興審議会の運営に関する規程の一部改正というところで、これについて、改正する規定を加えたいということでございます。

まず、内容につきまして、事務局のほうかからご説明のほうお願いできますでしょうか。

#### ○事務局

それでは、高砂市文化振興審議会の運営に関する規程の一部を改正する規程について、ご説明させていただきます。

資料の文化振興審議会の運営に関する規程の一部を改正する規程の2ページと3ページをお願いいたします。2ページは、改正前、現行のものでございまして、3ページが改正案でございます。

第5条をご覧いただきたいと思います。現行の高砂市文化振興審議会の運営に関する規程につきましては、代理出席に関する規定がございませんでした。そこで、このたびの3ページ、改正後の第5条を追加しまして、第2条第2号及び第4号の委員が事故その他やむを得ない理由により、審議会に出席できないときは、代理人を出席させることができるという代理人出席の規定を新たに定めようとするものでございます。

これにつきましては、団体からの推薦による委員につきましては、会議に出席できない場合については、文化振興に関しても、団体としての意見を代理人に委任しまして、審議会で発言することができるようにしようとするものでございます。

このことにつきましては、高砂市文化振興審議会の設置目的にも合致するものであると考えております。

この改正後の第5条の運用につきましては、資料の4ページをお願いいたします。4ページで、改正後の運営につきまして、細目を定めようとするものでございまして、高砂市文化振興審議会の運営に関する規程の代理出席の取扱いについてでございます。

1、代理出席者は、代理する高砂市文化振興審議会委員が所属する機関又は団体に属する者とする。

2、代理出席者は、高砂市文化振興審議会（以下「審議会」という。）の定足数に含めない。

3、代理出席者には、審議会における議決権は付与しない。

4、代理出席者に対する報酬及び旅費は支給しない。

このような取扱いで運用していきたいと考えております。

説明については、以上でございます。

#### ○会長

ありがとうございました。

今資料を基に、詳細なご説明があったわけでございますけども、これにつきまして、

何かご意見、あるいはご質問を賜りたいと思うんですが、いかがでございましょうか。

ちょっとじゃあ、私から1点、これ、代理出席については、例えばほかの審議会等ではどのような扱いをされてますか。

○事務局

総合計画の審議会においても、団体からの推薦者については、代理出席を認めていくという形はとっております。それと同様の取扱いでいきたいと考えております。

○会長

ありがとうございます。

何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

もし特にご意見、ご質問なければ、先ほどの事務局提案で第5条を新たに加えて、既存の第5条が第6条になるんですけど、そういうふうな規程の改正で進めたいと思いますけれども、何かよろしいでしょうか。

よろしければ、ご了承ということで。

はい、ありがとうございます。

それでは、先ほど事務局からご提案がありましたように、高砂市文化振興審議会の運営に関する規程の一部を改正する規程が了承されたということでございますので、この審議会から、この規程に従って運用したいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○会長

じゃあ、よろしく願いいたします。

それでは、今日は森本委員がご欠席でございまして、実は森本委員のほうから委任状がでてくるんですかね、その森本委員の委任状の提出を受けておりますので、森本委員の欠席にかわりまして、代理人に出席をお願いをしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○会長

どうもありがとうございます。

異議なしということでございましたので、こちらのほうに、よろしく願いいたします。

○代理

発言はできるんですか。

○会長

発言はできます。先ほどの4ページ目のほうのご説明にありましたように、定足数には含めないわけでございますから、議決にはかかわっていただけないんですけども、発言等はもちろん、自由にさせていただいたらというふうに思っております、よろしく願いいたします。

それでは、よろしいでしょうか。

それではどうも、よろしく願いいたします。

○代理

よろしく願いいたします

○会長

それでは、議題の（２）のほうに進めさせていただきたいと思います。平成２５年度及び２６年度の実施計画の強化及び検証ということにつきまして、Ａ３の分だと思っておりますけれども、これを使いまして、事務局のほうからご説明のほうをお願いいたします。

○事務局

それでは、Ａ３のほうの資料をお願いいたします。

少し小さくて見えにくくて申し訳ございません。平成２５年度と平成２６年度、各年度ごとの評価を書いております。Ａ３の資料、上のほうに各年度ごとの目標に対する評価につきましては、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃで評価し、Ａが目標どおり、Ｓが目標以上にできました。Ｂが目標未達成、Ｃは大部分が目標未達成という目標に対する評価をしてございます。それと、右のほうにありますけれども、２５年度と２６年度の事業の目的に対する評価をしてございまして、それにつきましては、二重丸と、丸と三角とバツ、それと、横のバーに表記しておりまして、丸がおおむね目的を果たした。二重丸は完全に目的を果たしている。三角は、あまり果たせなかった、バツは全く果たせなかった。未実施のところはバーという形で表記してございます。

それでは、主なものにつきまして、ピックアップしてご説明させていただきたいと思っております。

まず１ページのほうですけれども、番号のほうが、１－１－１の真ん中辺り、都市政策課のところでございますけれども、歴史学習会、これにつきましては、平成２５年度、平成２６年度Ｓ評価、それと、二重丸の評価となっております。その理由につきましては、目標以上の回数を実施することができたということによります。それに加えまして、荒井地区に、荒井ふるさと発見し隊というグループがございまして、そこで「ふるさと宝の地図」という荒井の地図と、それを説明しました「宝の地図みちしるべ」が作成されてございます。これは、平成２５年度の高砂市夢のシロ補助金を活用して作成されたものでございます。そういう、各団体が市の制度を活用して、文化振興に努められたということは、大変意義のあることであると思っております。

それと、その下のほうです、また１－１－１のところでも、秘書担当というところでも、行事において謡曲「高砂」を活用ということで、昨年度は市制６０周年記念で、秘書課のほうでの評価がＳ評価と二重丸の評価になってございます。これは、６０周年の記念式典におきまして、謡曲「高砂」の大合唱、それと、仕舞が行われまして、記念式典の場で、謡曲「高砂」を大勢の方に披露できたということが評価の理由になってございます。

一番下のところですが、1-1-1市史編さん課のところですが、ここはB評価と三角となっております。これは、高砂市史の完成記念としまして、文化スポーツ課と高砂学でコラボして、60周年記念、高砂市史完成記念と題して、高砂学を開催しましたが、高砂の歴史や文化を学ぶ、非常によい機会となり、また、高砂市史のPRもできたんですが、市史の第7巻がその当時、まだ完成しておらずに販売できなかったということで、少し低い評価となっております。

3ページのほうをお願いいたします。

番号で言いますと、1-2-1のところですが、真ん中辺り、歴史ガイドクラブによるまち歩きということでございまして、この歴史ガイドクラブによるまち歩きというものにつきましては、まち歩きを依頼しまして、遺跡等の周知が図られたこと、またこういった研究をされている方、専門家の活躍により、周知できたということで、二重丸の評価となっております。

7ページのほうをお願いいたします。

7ページのほうで、番号で言いますと、2-1-5になります。総務課の事業評価ですが、電話の待受BGM、それと庁内BGMでございます。これにつきましては、高砂ゆかりの人物である佐々木すぐる先生の月の沙漠に、平成25年度から電話の待受の音楽を変えてございます。また庁内の昼休み時間に、そういった童謡などを流すということにしたことによりまして、広くゆかりの人物、佐々木すぐる先生をアピールできたということで、二重丸の評価となっております。

2-2-2・・・市史編さん課のところ、Cとバツとなっておりますけども、それは、先ほどと同様の理由でございます。

あと、下のほうですね、2-2-3のところですが、都市政策課のところ高砂町サインというところですが、これにつきましては、平成25年度と平成26年度に、天竺徳兵衛の墓、また天竺徳兵衛生誕の地の案内板も設置されました。

続きまして、8ページをお願いします。

8ページの上から2段目、番号で言いますと、2-2-7文化資源（石の宝殿・竜山石切場）の保存・活用のところがございます。これにつきましては、平成26年10月6日付けで、文部科学大臣は石の宝殿及び竜山採石遺跡を国の史跡に指定しました。国の史跡指定ということにつきましては、市内では初めてのことでございます。

その下、2-2-7産業振興課のところがございますけども、26年度、60周年記念におきまして、日本三奇観光パートナーシップが結ばれております。それは、60周年記念式典におきまして、文化会館のじょうとんばホールで、高砂市の石の宝殿、塩竈市の四口の塩釜、高原町の天の逆鉾が古くから日本三奇とされることから、今後三市町の観光協会が連携して、交流を図りながら、観光のPRに努めるということで、高砂市観光協会、塩竈市観光物産協会、高原町観光協会が日本三奇観光パートナーシップ宣言を行いまして、協定が結ばれてございます。



その下、2-2-7文化スポーツ課、謡曲「高砂」のCD配布でございます。

これは、平成26年4月1日以降に、市民課の窓口婚姻届を提出されたご夫婦に、謡曲「高砂」のCDを贈呈してございます。

これによりまして、高砂のシンボルというべき謡曲「高砂」を未来の人へ传承することができることになったかと思っております。

評価としましては、ちょっと目標枚数が、目標を高く設定してございまして、目標枚数を配布できなかったために、C評価となっております。

次、その下の2-2-8文化スポーツ課、謡曲「高砂」普及委員会でございます。

これは、商工会議所が中心となり、謡曲「高砂」の普及について協議してございます。平成26年度につきましては、各企業のグループ、また高砂学でも謡曲編というものをつくりまして、各グループで、高砂の観月能の前に謡曲の発表会を行いまして、披露する場を設けられました。

次、9ページをお願いいたします。

9ページの上から2番目、3-1-2文化まつり事業でございますけれども、文化連盟による60周年記念文化まつり事業でございます。昨年度は60周年記念事業としまして、例年よりも拡充して実施されております。例えば、吹奏楽団や合唱につきましては、指揮者等、またゲスト出演を招待しまして、多数のお客さんに見ていただくことができましたし、そういうゲストの方と共演することで、団員もテクニックを学ぶことができ、レベルアップにつながるようになったと思います。

また、高砂ゆかりの新作の舞踊などが創作されて、披露されまして、民舞発表会では、例年それぞれの会派ごとの発表だったんですけれども、60周年を記念しまして、各会派が一緒になりまして、新しい創作をして、発表して、そういうコラボをしてつくりあげていったということが、大変意義のあることと思っております。

また演奏連盟につきましては、演奏と舞踊のコラボレーションを行ったり能衣装を飾って実施したりするなど、芸術にもふみこんだ事業が実施されました。

また、地域の祭りをテーマにした交響曲を制作するなど、高砂をアピールする事業が行われております。

また、プロの劇団を呼びまして、そういうプロの劇団による舞台劇も身近で見ることができましたし、美術協会展につきましては、会場を2会場に拡大するとともに、募集作品の見直しを行い、また美術協会のOBの作品も合わせて展示されたりなど、充実した展覧会が行われました。そういった60周年記念をきっかけにしまして、様々な活発な文化活動が行われ、団体だけだったものが、団体間で一緒にやるきっかけができた、また市民も本物を見る機会が得られたということが非常に大きいことだったかなと思っております。

続きまして、3-1-3、もう少し下のほうですけども、文化会館展示スペースの活用ということでございますけども、先ほどの60周年記念事業を行った写真や高砂学の

活動編ということで吟行俳句を行ったんですけども、そういったその俳句を展示して、文化会館の展示スペースを活用して広く活動を知らせることができました。

平成26年度につきましては、目標件数に達しなかったためにB評価となっております。

3-1-4市民病院の院内コンサートですけども、これにつきましては、知名度も上がり、多くの観覧があるということで、二重丸の評価となっております。

次、10ページをお願いいたします。

中ほど、番号で言いますと、3-1-7教育センターのところでございますけれども、教育センター、高齢者大学で講座が開催されておりまして、平成26年度は目標の回数を実施できたことと、また新たに学生OB対象に講座を開催できたということで、S評価となっております。

12ページをお願いいたします。

下から数えまして四つ目、番号が3-3-2なんですけども、市民活動推進課、夢のシロでございます。平成26年度につきましては、通常事業としましては、佐々木すぐる顕彰会による「童謡で文化振興事業」、それと、歴史ガイドクラブによる「印南郡十三箇所巡り」のガイドブックの作成、高砂フィルムコミッションによる映像を通しての、高砂市の振興を図る事業が行われました。また、60周年記念事業としまして、3事業行われまして、総合運動公園サブグラウンドで「凧あげまつり」、また向島でギネスに挑戦事業、それと、ナイトファンタジーイリュージョンが開催されました。これも市の制度を市民が利用して、文化を盛り上げていったということの意義が大変大きいかと思えます。

13ページをお願いいたします。

13ページの下から2番目、番号3-3-6でございます。企業との連携ということですけども、企業と連携しまして、ウィーン少年合唱団の公演が開催されたこと、また、たかさご万灯祭においても、地元企業との連携が図れたということで、二重丸の評価となっております。

次、14ページの方をお願いいたします。

上から2番目になります。4-1-1産業振興課のご当地博でございますけども、この60周年事業で開催されました。このご当地博で、日本三奇館がありまして、そこでは、日本三奇を石の宝殿などのモニュメントを作成して紹介できましたし、また特産品の販売もそこで行われて、地域との交流もできました。またご当地グルメなども数多く紹介することができました。

その下の、しあわせ高砂映画祭も開催されました。こちらにつきましては、PR不足により、来場者が少なかったということもあり、B評価となっております。

それと、中ほど、番号4-1-3文化スポーツ課、文化団体のコラボレーションでございますけども、先ほどの60周年記念で開催したことによって、様々なコラボレーシ

ョンが実現できたということで、二重丸の評価となっております。

下のほう、4-2-2文化スポーツ課、60周年記念事業としまして、東はりまコーラス大会と兵庫県いけばな展を60周年記念の冠をつけて開催されました。東はりまのコーラス大会では、東播磨、北播磨で活動している音楽団体が一堂に会しまして、コーラスの発表を行い、相互の交流を行うことができました。また文化会館ホワイエにおいて、高砂市や日本三奇、また佐々木すぐる先生の展示も行い、高砂のPRをして、大会を盛り上げることができました。

兵庫県いけばな展につきましては、伝統芸能であるいけばなを、広く市民に見ていただいたり、いけばなのさらなる発展と、また高砂市茶華道協会と、兵庫県のいけばな協会が連携しまして、多目的ホールならでの、特徴ある展示会が開催されまして、家元や理事の作品が一度に鑑賞することができるという機会になりました。また、オープニングセレモニーにおきましては、謡曲「高砂」のCDを流すなど、高砂市の魅力をアピールすることができました。

次、15ページをお願いします。

4-2-4文化スポーツ課、国際交流の、国際交流文化祭でございますけれども、国際交流フェスティバルということで、狂言、琵琶、茶道、琴といった日本の伝統芸能と、またフラダンス、インド舞踊、ベリーダンス、バンドのライブなど、多種多様にわたる文化を楽しめる国際交流フェスティバルが開催されまして、異文化も紹介でき、また活性化につながったということで、S評価、二重丸の評価となっております。

16ページをお願いいたします。

番号で言いますと、5-2-2経営企画室、「たかさご未来寄附金」の高砂ブランド商品贈呈でございますけれども、ふるさと納税の寄附件数が大幅に増加しまして、高砂のブランド商品を多く伝えることができたということで、評価は二重丸評価となっております。

5-2-3産業振興課、市内商工会議所のところでございます。ご当地グルメ発信ということですが、高砂あなごマーケティング研究会による穴子料理コンテストの開催など、高砂あなごのPRなどもされました。

また、こちらのほうではちょっと記載はしてないんですけども、スポーツ事業につきましても、スポーツに文化を取り入れる試みということもしてございまして、高砂マラソンにおきましては、メダルを竜山石製のメダルに変えまして、高砂の特色をPRしております。また、昨年度は60周年記念ということで、ポスターのデザインを小学校から募集しまして、その募集したときの展示も行いました。非常にポスターが好評だったために、続いて実施されて、今年度にもつながっているという状況でございます。

主なものは、以上でございます。

○会長

どうもありがとうございました。説明を短時間でということで、幾つか順に伺いまし

て、特にS評価、二重丸評価であったもの、逆に評価が低かったものを中心にご紹介いただいたわけでございますけども、もちろん、先ほどご紹介いただいたもの以外でも結構でございますので、何かご質問とかご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

細かくて、ちょっと字が小さいので、読むのがあれだという方も多かったと思うんですけども、何かお気づきの点があれば。

じゃあ、委員。

○委員

8ページの2-2-7なんですが、国の指定を受けたでいいんですけども、何か国から維持管理費とか費用は出てますか。

○会長

その後から、27年でも結構なんですが、もしそういう史跡の指定によって何らかの、要するに、文化財保護法に係る補助などがあるのかということだと思っておりますけども。

○副市長

27年度のところに書いてますように、今年度、その保存管理計画を策定するというところで、今委員会、学識の先生方も入っていただいて、その保存管理計画を、策定が始まっています。その部分については、国から補助が入ってます。また今後、そういった中で計画をまとめて、いろんな整理を進めていくと、そういうことになりますと、またそういった文化庁なりの補助とか、そういったものが期待できるのかなとは思っています。

今の時点では、今年度の計画策定についての補助が、いただいておりますというところなんです。

○会長

これ、所管は教育委員会ということでございますね。

委員、よろしいでしょうか。

○委員

はい。

○会長

ほか、いかがでしょうか、何かご質問とかご意見ございますか。

○委員

同じページの上から4番目、謡曲「高砂」のCDの配布の件なんですが、目標が26年度、420件ですけど、420件ということは、420組結婚される予定だということで、書かれてるということですよ。実際は、その評価で、配布できなかったということでCなんですけど、文化スポーツ課のほうで、結婚の組数を増やすことはできませんよね。実際は、婚姻届が出て初めてできることですから、その評価が低いというのは、評価の仕方が間違ってるんじゃないかなと思うんですけど。

評価するのであれば、高砂市内で組数が100組あって、10組しか配れてないとか

いうことであれば、評価は低いと思うんです。100組中の99組とかあれば組数が少なくても評価は高くても良いのではないかと思います。420組の目標達成は、市政による少子化対策で結婚するように進めて、増えてくればできますが、そうはいかない、そういう評価の仕方では下げるといえるのは、ちょっと違うのかなと思うんですが。

○事務局

初年度で全く件数とかもちょっと、見込みと大きく違ってたので。

○委員

それと、今の発言で見込みが違うということ言えば、今高砂市、人口9万4000人ぐらいですよ。減ってきてますが、結婚された組数というの、絶対把握できてますよね。その組数というのは、勝手に増やしても仕方ないから、今の組数でいってたら、それ以上絶対、100組と言って、200組になることはないと思うのでその辺の想定は、多分初めからできたんじゃないかなと思います。

○事務局

その件数の件なんですけど、420件というのは、前年度の高砂市の婚姻の件数で、設定したものです。ただ、お渡しするには、窓口で直接来ていただかないとお渡しできないので、例えば、土曜日とか日曜日とかに届け出られる方もいらっしゃいますし、本人さんが来られなくて、代理で持ってこられる方もいらっしゃいますし、本人さんがお断りになられる方もいらっしゃいますし、いろんなパターンがあって、お渡しできないパターンがありました。そういうことで、件数のほうは減っております。

また、もっとPRするために、そういった方にもお配りする方法があるんじゃないかとか、もう要らないって方がいないように、また、もっと受け取っていただける方法を研究しないといけないのかなとは思っています。件数が減ったことについてはそういった理由からです。特に当初のときは、土日をちょっと想定してませんで、今北側のところで受付をしてるんですけども、その方に最初、渡していただく連絡が届いていなくて、渡せませんでした。今は土日でもご希望があれば、そこでお渡しすることはできるように対応させていただいております。そういったことで、思ったようにPRもできなかったし、件数が減ったというのが実情でございます。

○委員

逆に、420でしたら420に配れるようにすることはできるのではないですか。

○会長

それは、郵送するとかってということですね。

それは予算の関係もあるかと思うんですが。

○事務局

当初は、来られた方にお渡しをするっていう発想しかなかったもので、郵送するというような費用も置いておりませんでした。

○委員

次にもつながると思うのですが、予算がないと言われたら言いようがありません。

○会長

だから、こういうことを徹底すべきであるという考え方であれば、委員がおっしゃったように、郵送等を含めてもらうべきだし、いや、窓口で渡すことに意味があるんだというのであれば、そこまで考えなくていいのかなということだと思います。ちょっとまたその辺り、皆さんにもご意見いただければと思います。

○委員

それに関しましては、やはり謡曲のPRのためのCDであるということからしますと、やはり婚姻届を出される方全てに渡すっていうのがやっぱり条件じゃないでしょうか。じゃないと、あの人に渡し、この人には渡らないとなりますから、そこら辺の予算は何かお付けになりまして、知っていただく、そうすると、またそこから赤ちゃんもお生まれになりますでしょうし、こんなもらったよっていうことから浸透していくと考えるんですけど、いかがでしょうかね。

○会長

徹底したほうが良いというご意見が、委員もそういったお立場ですね。

○委員

そうですね。

○会長

ちょっとそれ、ですから・・・来年度、ひよっとしたら郵送代をまかなえないじゃなくて、予算措置をされてなかった可能性がありますので、来年度、その・・・受け取ってくれない人はどうするんだっていう議論は当然出てくると思うんですけども、窓口に来られなくて、郵送の方については、お返送したときに、何か付けるとかっていう手はあるかもしれませんがね。

よろしいでしょうか、何か。

○委員

200項目以上あると思うんです。だからこれ、まとめていただいて、さっき委員も言っておられましたけども、大変だなと思うんですけど、いい項目ばかり並べてみたら、どういう評価でなったのか、将来どういう検証というか、目標というか、何かそういったことの、何かイメージはありましたか、やっておられて。

○事務局

昨年度は60周年記念なので、特に様々な事業が、通常よりか拡大されて実施されました。それぞれの事業自身も、市全体としましても。ですので、これは60周年記念としてお祝いする、それだけじゃなくて、それが今後につながる、どんどん活動していくというふうになったのかなと、これをつくる作業をしているときに、思いました。

○委員

お金かけたらええっていうもの。

○事務局

それなりに効果はあったんじゃないかなとは思いますが、やっぱりやっただけのことは。

○委員

あと質的なことで二重丸とかいい項目が付いたもので、質的な共通点というか、ここをこう付いたらというようなこと、何か共通点みたいなものはあったんですか。

○事務局

文化スポーツ課で所管している文化連盟の文化まつり事業とかあるんですけども、そこにつきましては、先ほど説明しました新たなコラボレーションとかができたので、これがなかなかできなかったんですけども、そういったのができたということがやっぱり、大きいかなと。また、もう一つ、夢のシロ補助金を使って活動していこうというのもありますけども、それを活用して市の発展につなげていこうというふうにしている、そういうのが非常にポイントとして高いかなというは、これをつくったときに、それを感じました。

○委員

そうしましたら、この新たなコラボということは、担当課が頑張ったということなんですか。

○事務局

担当課ではなく、それぞれの各種団体。

○委員

団体が頑張ったの、担当課じゃなくて。

○事務局

60周年記念事業もありましたので。

○委員

だから、各種団体が頑張ったことは間違いないのですが、勝手に頑張ったんじゃないくて、そこにどう担当課が関わったか、どう文化スポーツ課が関わったか、お金も含めてですが、その関わり方次第で、より頑張れた、少し頑張れなかった、ということが出てくるように思います。その辺の関わり方ということが評価をするときの課題になるのかなと思います。

○事務局

実際それぞれの文化を支えているのは、各市民であり、各団体であると思いますので、その団体、市民の活動がやっぱり活発になっていると。それに対する行政は支援なのかなと思います。

○委員

いや、だから、単に支援じゃなくて、積極的な方向を与えるとか、方向性を示すような形での支援でないという気もするんですけどね。そういう意味で、文化スポーツ課やったら、そういう役割を持っていらっしゃるんじゃないかなという気もするんですけど

どね。

○事務局

この文化振興の基本方針をつくる時に、委員からも出ていたと思うんですけども、高砂にはいろんな宝がいっぱいある。けれども、それが知られてない、もっと発掘していかないといけないんじゃないかというご意見を確かいただいたと思います。そういう意味では、高砂にもともとあるいろんな文化資源を、活用した事業をやってくださっている団体さんが多いと思います。やっぱりそういう団体に、行政としても支援していきたいと考えております。普段は予算の面でいうと、例えば60周年という記念の年であってこそできたということもありますし、それを機会に、普段、今言いましたように、できなかったようなコラボとかが生まれて、さらに高砂の資源を、皆さんの目に触れるような機会づくりになったと思います。もちろん行政としても、謡曲「高砂」というのがこの文化振興のベースにあるわけですから、それを使ったもので、何かできないかなというのは、常に考えているわけですけども、こちらが考えなくても、団体さん主催の事業のオープニングに謡曲を入れてみませんかとか、日本の伝統文化を取り入れてみませんかというようなアドバイス、提案は行政がしていかないといけません。

行政は、広く浅く見てるわけですから、一つの団体さんが、プロフェッショナルにやっついていっちゃうことと違う団体のプロフェッショナルな部分を引っ付けたらどうなるのかという目は、やっぱり行政が一番持てる場所だと思うので、そういった提案をさせていただいたり、助成金を活用する場合も、助成金をもらいやすい方法を助言させていただくなど、そういったことが行政の役割だと思います。

○委員

だから今言われた、もう一步とか、それを期待したいですね、お願いします。

○事務局

そうですね。60周年で、ただお金をばらまいて、使ったらいいんじゃないので、先ほど言ったように、今後につなげていくようなものでないと、意味はないと思います。そういったところは、各団体さんが苦勞なさったり、一生懸命考えて事業計画を立てていただけてますけども、次への期待も持っておりますし、27年度以降も、それをやっぱり引き継いでやってほしいと思います。例えば、わがまち高砂という歌が、60周年を期にできましたけど、それはずっと歌い続けていきたいと考えておきまして、それでこそ、やっぱり60周年でお金をかけた意義があるわけですから、そういったところを今後期待していただいて、また委員の皆さんも見ていただきたいと思います。以上です。

○会長

ほか何かございましたら。

○委員

14ページなんですけれども4-1-1のところがありまして、60周年記念しあわ



せ高砂映画祭っていうのは27年度の事業目標を見てますと、すごくいいことを書いてるんですね。ですから、今事務局が言われたように、映画を通じて、この高砂市の町並みを紹介して、地域の活性化を図るということが、案外この映画祭の中から広めていけるんじゃないだろうかということで、見直しとかなってるんですけども、ちょっと未定なんですけれども、これをもう一步考えていただいて、これをいい方向にコラボしていけるように、方向に持っていかれたらいいんじゃないかと思うんですが。何かその計画とか、未定なんだけれども、何かちょっと、出てるものってありますか。

○会長

もしちょっと今お答えいただけるなら。

○事務局

産業振興課フィルムコミッションでは、今年度ですけども、短編の、猫の目線で観光スポットを紹介する動画を制作し、インターネット等で見れますし、イベントで上映とかしてましたので、そういった活動に、今年度のほうにも実際つながっております。

○委員

ぜひぜひ続けて、紹介してほしいと思いますね。

○会長

よろしいでしょうか。

じゃあ、委員、お願いします。

○委員

3ページ、その中の真ん中の1-2-1各課というところで、歴史ガイドクラブによるまち歩き、これをずっと見ていただきますと、27年、26年と予算がゼロなんですよ。黙って資料づくりをされてる、すばらしいなと思って、その資料づくりは毎日ではないんですよ。私がいなくてもあるんですけど、そういうことで、高砂市内のいいところをみんなで知ろうじゃないか、その先駆者として、その人たちが一生懸命資料をつくっておられる。

ところが今度、予算面を見ると、ゼロゼロゼロ、こうなってるんですよ。だから、予算の要求がないから、あるいは予算化に値する内容でないから予算化できないのか。しかしこの、27年度、一番右を見ると、27年、28年、29年と継続になっております。予算化しないか、もうずっとやっといってくれたらいいわというような思いなのか、その辺がね、隠れた中で、いろいろ高砂のいいところをPRしていただいている人に申し訳ないと思うんです。その辺で、もう少し見る目を広げると、こういうことも大事ではないかな。そういうことを協議する場であってほしいなと、私の願いでして、一市民としての。

○委員

・・・払われたことあるんでしょうかね、ちょっと聞いていいですか。・・・補助金のほうもありますから。

## ○委員

一担当者として、歴史ガイドクラブの代表ということですが、金銭面では非常に四苦八苦しなからですけども。ただ、先ほど言われました、夢のシロでどうやというのは、やっぱり、町まわりをするために、いろいろ調査して、その調査して、写真を撮って、説明書きをしたものを冊子にして、会員とか、管理者の人に配布するために、冊子をつくと。そのために夢のシロを利用したということはありません。それはもう、丸々そっちの方へ入れてしまって、運営資金にはしたので。

ただ、今年から概算で商工会議所、観光協会のほうから、ちょっと現金をいただくようになりまして、拡声器を買ったり、そういうことができるように、安いもの探して買うようにしております。

福祉のほうからも若干、昨日ですけど、請求しまして、それもやっぱりわずか、もらうのにわずかやって言われへんけど、もらうようにして、あとはお客さん、来られたお客さんに、ちょっと、嫌らしいんやけど、ガイド料と、謝礼金というのを出してくれる人からはありがたくいただくと。でも、なんぼって決まってへんから、ただ、ありがとで帰ってしまう人もあります。そういった形で運営しております。

それやから、バックアップがあると非常にうれしいなというのはございます。

## ○会長

ありがとうございます。

先ほど、委員がおっしゃったことも、実は委員がおっしゃったことと関連しております、実はこれに書かれていることで、S評価って、結構お金がかかってないS評価が多いんですね。それは何かというと、先ほど事務局のほうから、あるいはほかの方からも伺いましたように、どのように団体と協力していくのか、どう市の施策を引き上げていって、それを、パズルのピースのようにはめ込んでいけるか、この部分がきつとここに書かれている。

ですから、実際にはあれですけど、委員がおっしゃったように、市の補助だけでなく、様々な、商工会議所ですとか、社協さんですとか、それをこの文化振興の中にどうピースとしてはめ込んでいくのかというのがこの部分なので。

それと、もう一つ同時に、じゃあ、行政からお金を出す場合は、どういうふうに考えないといけないのかっていうのは、また別にあります。それは何かっていうと、先ほど事務局のほうから、それをどう加速していくのかとか、それを政策に位置づけていく。だから、政策に位置づけないと困るっていうケースももちろんあるので、これはやはり、補助を取る、取らないの議論になってくると思います。

残念ながら、恐らく先ほど言われている活動に対する補助メニューというのはいないわけですが、多分恐らく、どの部局でも多分ないわけですね。ですから、それではできていない。だから先ほど、委員がおっしゃったように、一般的な補助メニューである夢のシロを使ってくださいとかっていう形になっているのが、今の現状だろうというふうに思

います。

ただ、委員が、こういう地道な活動をもう少し掘り当てて、先ほど事務局がおっしゃった、宝を探し当てて、まさにその部分を、どうやって前向きにさせていくのかと、そういった方策っていうのは、本来行政の、この文化振興になるんじゃないかと。これは、ステージをつくっていくとか、あるいは人材を育成していくということにもつながる、人材発掘も・・・入ってましたので、これじゃないかということですので、少し考える余地はあると。それは、お金だけじゃなくて、例えば顕彰っていうか、要するに表彰するとか、いろんな方法があると思うんです。別に補助金だけが方法ではないと思いますので、先ほどもあったように、補助メニューなんかを使うだけじゃなくて、例えば、商工会議所でこんな講座があるよとか、あるいは、財団とかがあるよというものをご紹介するだけでも、非常に大きな役割だと思しますので、様々な方法はあるかなと思うんですけど、いつもありがとうございます。

何かもしありましたら、よろしいですか。

じゃあ、委員、どうぞ。

#### ○委員

別の、7ページの2-2-3、下のほう、下から五つ目、四つ目、三つ目。市指定文化財案内板、それからふるさと文化財案内板、高砂町サイン、こういうような、皆同じ形で、部署が違うところ、また、対象の違うものを・・・非常にこれ、窓口が広がって、ええなというのは実感しとるんですけど、予算が全く、今の話で予算がないと、ほんまに増やしていくつもりはあるんやろうかという。

決算としては、一つは市指定文化財は12万9,000円、それから、ふるさと文化財が14万9,000円、それから高砂町サインが36万1,000円。これ、全部竜山石で、大きさが一緒で、皆同じように、ステンレス、アルミかの銘盤を当てたよって、値段一緒やと思うんですけど、これ、それぞれ値段がちょっと違うという。もし安くできるんやったら、安いので本数を増やしてもらったほうが。今やったら、高砂町を主体にずっと増やしていきよるんやけど、あと、荒井とか高砂とか米田とか曾根とか伊保とか、ほかにもたくさん、他の地域にもいっぱいあるので、今、年に1本ずつというふうな計画なんでしょう。その辺が、安いのでたくさん付けるといいかなと。

#### ○事務局

高砂町の案内板のサインにつきましては、増えていったと思います。ふるさと文化財標柱のほうは、文化スポーツ課のほうで設置しておるんですけども、予算の額につきましては、教育委員会の文化財係に申請があって、登録になります。その登録になった件数を、翌年度に予算化して、標柱をつくっておりますので、その登録件数によります。ですので、平成26年度は標柱は1本だったんですけども、平成25年度は登録された翌年度に予算化し、4本設置しています。その登録された件数に合わせて予算化しているので、その年度によって、予算額が変わってきているということです。

○会長

認定された部分を予算化する。予算があるから、この部分を認定するというわけじゃないんですね。

○事務局

認定されてから、翌年度に予算化します。

○会長

先ほど、委員がおっしゃったその、盤をそれぞれもうちょっと安くして、例えば認定数を増やすような努力は何かできないかということはいかがですか。

○事務局

認定数を増やすというのは、なかなか実際ちょっと難しいかなとは思いますが。いろいろとそういう申請を考えられているところはあるようです。

○会長

よろしいでしょうか。

ほか、何かありますでしょうか。

○委員

委員のほうから、ちょっと意見というか、要望を発表するように言われてまして。

3ページの謡曲「高砂」のことなんですけど、ここで謡曲「高砂」を指導するというふうに書いてありまして、指導するだけでなく、謡えるようにするという目標にしてはということです。

それと、小学校、中学校で教えていくと。ただ、小学生、中学生、忙しいので、幼稚園とか保育園でも、お遊戯的に教えていったらどうかという。それはちょっと意見として聞いてきました。

○会長

ありがとうございました。

いかがでしょうか、そこのところ。目標の項目を変えてはどうかということなんです。

○事務局

小学校、中学校は、高砂小学校では、ふるさと高砂学で、実際に謡曲の指導とかもされているので、高砂小学校の生徒に出会ったとも聞いたことあるとか、謡えるということも聞いたこともあります。

幼稚園とか、未就学児にもということなんですけども、文化スポーツ課では、高砂子ども狂言ワークショップという事業を行っているのですけども、なかなか古典芸能というのは取っつきにくい。大人はなかなか、古典芸能と聞いただけでも、敬遠してしまうところがあるので、そういったところ、やっぱり子どものうちからであれば、そういう、初めから敬遠するようなこともないので、できるだけ小さいうちに体験してもらい、経験してもらえばいいんじゃないかということで、各幼稚園、保育園、5歳児対象で行っ

ています。いきなり能を見せても、大人の方が見てもなかなか、すぐ理解できないので、同じ古典芸能でも、狂言のほうでしたら、時間も短いですし、全く知識がなくても、小さい子が見てもわかる。そこで実際、見てもらうことによって、そんな難しいものじゃないという、固定観念もなくなりますし、そういったことで、未就学児対象に高砂こども狂言ワークショップという事業を行っております。

またそこでは、この文化振興基本方針は、謡曲「高砂」をシンボルとして、その普及を目指しておりますので、その場で高砂の謡いですが、高砂やのところから仕舞も見てもらっております。高砂の謡いだけでなく、舞の部分も見て、5歳児が全員謡曲「高砂」の仕舞を見ることができ、その後、「高砂や」の謡いのところですが、見るだけでなく、実際にちょっとみんなで謡ってみようということで、ワークショップも行っております。そこで、一節だけですが、高砂やこの浦舟に帆を上げての部分で謡うということを、平成25年度からやっております。

見ますと、子どもたちは覚えが基本早いんですね。終わった後で、「高砂や」というのを実際声に出して謡ったりしているので、そういった活動をどんどん継続して行って、やっぱり、これはなかなか急に、1回やったからってできるものじゃないので、続けて何とか普及につなげていきたいなというふうには思って、実施しているところでございます。

○会長

最初のご質問があった、目的のところを、謡うという目的のところを書く、この表でいきますと、事業概要の27年度のほうか、次の来年度の。そちらのほうからですね。

○委員

A4資料の5ページで、下のところ。ここで、事業の概要として、謡曲「高砂」の指導をするようになってました。これが、A3の資料の3ページに書いてました。

○会長

これは26年度でやられてますので、28年度以降、どうするかというところを、ちょっとまた、その辺り検討いただいたらと思います。

すみません、それとあと、もしまだご意見いただいてない、委員、何かもしありましたらお願いできますでしょうか。

○委員

初めて参加させていただきます。事前にこれ、いただいたんですけど、こんないろんな活動があったんだということでこれから勉強させていただこうと思います。

一つ、さっきのCDを婚姻届提出の方にお配りするとか、子どもたちに学校で、経験したこの感想とかはどんなのがありますでしょうか。

○会長

感想と言いますと・・・体験した後の。

どうでしょう、何かその辺り。先ほど様子などはお聞かせいただいたんですけども、

そういう、子どもたちの感想だとか、そういうものは、もし把握されておられるのであれば、教えていただいてもいいですか。

○事務局

非常に楽しかったと言われておりました。子どもは純粋に楽しんでますし、幼稚園、保育園の先生方も、子どもだけじゃなくて、保護者の方たちにも見てもらいたい、それぐらい非常に好評でした。また、後ほど平成27年度で説明しようと思っていたのですが、そういう、保護者の方にも見てもらいたいという声もずっとありましたので、今年度の夏には、幼稚園、保育園だけじゃなくて、総合体育館に特設舞台を設けまして、実際、舞台に出たい方を募集しまして、募集した人に実際特設舞台で、謡曲「高砂」を披露していただきました。そのときは、4回の練習でやったんですけども、もう4回の練習でも、先ほどの「高砂やこの浦舟に帆を上げて」と子どもたち、見ずに謡えるところまでなりました。また出演者も保護者も、こんなすごい立派な舞台に立たせてもらえるとは思ってなかった、非常によかったです、とてもよかったですという感想を聞いております。

○会長

よろしいでしょうか、それで。

○委員

それと、ご結婚された方にはCDをとということですが、この反応とか、感想は。

○会長

どうですか、もらった方からの反応ですね。

○事務局

もらった方の反応はどうかという追跡は、実際ちょっとしてはないんですけども、26年度、このCDを贈呈しているということを、ホームページでも掲載したんですけども、他県の方がそれを見て、結婚された方がぜひ欲しいと、そういう問い合わせがありました。

○会長

先ほど言ったように、この事業に対してどう評価するか、委員もおっしゃったんですが、どう評価するかの中で、あるいは委員もそうかな、どう評価するかの中で、やっぱり実績評価だけでなく、要するに相手からフィードバックがあったかということも、ある種、それが評価に反映されたらよろしいんじゃないかということだと思います。

○委員

歴史のほうでとか、町並みを紹介してくださる方々のご努力なんかが非常に伝わってくるわけですけど、文化連盟のほうも、非常に目に見えないところと言いますか。本当に高砂市民の方々の努力というのが非常にありましてね、こういう評価が現れてるところからへんで、本当に、60周年にしても、助成金をいただいているところもあれば、いろいろその配分の仕方もなかなか難しいところがありまして、いただいて

いらっしゃらないところもありますし、非常にやはり、自腹を切つてと言いますか、もちろんご自身の信念やら、人生をかけてやら、高砂に対する愛情やら、いろんなものがあって、好きなことしてると言いながらも、やはり資金面やら時間的などところで非常に、市民の方々の努力というものがあってのことですので、そこら辺りを、もちろん市の方々もご理解くださってると思うんですが、やはり文化とか、芸術とか発展させるためには、絶対予算というものが必要だと思うんですね。だから、一つ一つ取り上げれば切りがないんですが、中央公民館にしても、床はぼろぼろだし、照明は暗いし、ピアノはぼろぼろだしと、何かことをする、ホールを借りるとなると、やはり非常に経費がかかる、やっぱり人件費もかかってくる、ボランティアで、こちらは入場料金取らなくて、ボランティアで子どもたちのためにしたいと思っても、やはり費用がかかってくる、自腹を切らなきゃならないとなると、1回2回はできても、本当に長い目でできない、長い時間をかけてできない。一生懸命やってきた人は段々と疲れてくるというふうな状況の中で、やはり予算というものをやっぱりかなりかけていただけたらありがたいなというふうには思います。

#### ○会長

どうもありがとうございました。

ほか、何かもし指摘することがありましたら。

じゃあ、私から二つほどよろしいでしょうか。1点目は、これは事業評価でないので、あまり予算と決算のことをとやかくあまり言うべきじゃないんですが、ちょっとあまりにも予算と決算で差がありすぎるものが若干見られるんですが、予算決算の関係というのは、やはり、評価の中でどういうように反映されてるのかと、もちろん、理由は恐らくそういう、収入事情等が関わってると思うんですけども、どういうふうにしていったらいいのかというのはちょっと、評価の中で少し要るのかなというふうには思いました。逆もあった、予算よりもはるかに決算が大きいというのは、やっぱり何らかの形で理由は要るのかなというふうには思います。

それともう一点なんですけど、実は委員がおっしゃったことで、私もそう思いながら聞いてたんですが、どういうふうなお金の使い方をしてるかなんですね。これ、市が単独で事業をやっているケース。それから、0円というのは、先ほど委員がおっしゃった、あるいは委員がおっしゃったように、市民が自分たちでやってるものに対するものを当てはめてるわけですけども、それ以外にも、例えばフィルムコミッションの150万円の映像事業というのは、恐らく150万円予算で、150万円決算ですから、恐らく使い切り、要するにフィルムコミッションに助成か委託か何かされてると思うんですね。その委託事業でやられてるのか、市が直接やっておられるのか、あるいは先ほど、委員が、あるいは副会長がおっしゃったように、こういう、市民がやってる活動を位置づけてるのかというような、そういう分析をちゃんとしていったらどうかと思います。これは委員が最初におっしゃったところなんですけども、そういう分析をすることによ

って、次の計画を考えなきゃいけないときに、どれが一番効果的だったかっていうのがわかると思いますので、これはちょっと本当に、270項目ざっと走っただけですから、それをどうやって分析していくのかって、少しちょっと、ご検討いただきたい、もしあれだったら、私相談乗りますので、少し考えていただいたら、先ほどの傾向なんかもはっきり出てくるんじゃないかと思います。

ということです、私のことは。

よろしいでしょうか。すみません、ちょっと時間取ってしまって、申し訳ありません。

急いでやっていきますね、平成27年度の事業計画について、すみません、ちょっとごめんなさい、手短にお願いいたします。

#### ○事務局

ちょうど今も流れているので、見守り放送、帰宅放送が教育委員会のほうで高砂市歌を編曲した音楽に変わり、リニューアルされています。

平成27年度の実施計画につきまして、A4の資料で説明させていただきます。

A4の資料の2ページ、またA3の資料の1ページですけども、まず1-1-1、文化会館のところをお願いします。

文化会館のところで、能楽ことはじめ、お稽古の効用と題しまして、平成27年度、初心者向けの能楽の講座が開催されました。その講座を108名文化会館で受講されました。またらしのほうを配らせていただいております1月から全5回の謡曲・仕舞の体験教室を今現在募集しているところでございます。

3ページのほうをお願いします。1-1-2、高砂こども狂言ワークショップですが、子育て応援フェアのプログラムに入れていただきまして、従来行っている幼稚園、保育園のワークショップとは別に総合体育館での公演において、応募のあった方に実際出してもらって、謡曲「高砂」を謡う、また子育て応援フェアの来場者の方に対してもワークショップを行いまして、みんなで謡曲「高砂」を謡うということを行いました。

次は、A4の5ページのほうをお願いします。下のほう、1-2-1ですけども、高砂文化教室「高砂学」ですけども、平成27年度、まず講座編での播磨国風土記の講座や、今年度は戦後70年でしたので、戦後70年の講座を行いました。

また、活動編では、新たに高砂染あいの会の協力を得まして、高砂染の体験も実施いたしました。

また、英語で巡るまち歩きということで、外国人に対してのまち歩きも行いました。

A4のほうの14ページをお願いします。A4の14ページ、2-1-5なんですけども、高砂ゆかりの人物の顕彰事業としまして、今年度、森はな先生の顕彰事業を開催いたしました。これは、ゆかりのある朝来市、加古川市、高砂市3市の連携事業で行いまして、内容といたしまして、アウトリーチとして各幼稚園、保育園8地区で、琴の伴奏を入れた大型紙芝居で、森はな作品を子どもたちに鑑賞していただきました。

また、本公演としまして、文化会館でオープニングにバラード「じろはったん」の歌



を聖パウロ生石保育園の園児と先生による合唱をし、また、公立保育園、幼稚園の先生の有志による60周年記念につくられた「わがまち高砂」をその場で披露していただきまして、また、森はな先生の代表作の「じろはったん」を市原悦子さんに朗読していただきました。

次、A4の17ページをお願いいたします。番号2-2-8ですけれども、たかさご万灯祭での謡曲発表会でございますけれども、今までたかさご万灯祭や高砂観月能に合わせて、謡曲「高砂」の発表会が行われていたんですけれども、今回は、日ごろ謡曲「高砂」の普及に努められている方々、グループが一堂に会しまして、全員で大合唱をしようということで、たかさご万灯祭におきまして高砂神社のたかさご万灯祭の会場に来られた皆さん一緒に集まって、全員で謡曲「高砂」の大合唱をしようということで、その普及につながるのではないかとということで、今年度は、たかさご万灯祭で謡曲「高砂」の大合唱が行われました。

次、19ページをお願いいたします。3-1-2でございますが、高砂市美術展でございます。これは、今年度1月に、高砂市のさらなる文化芸術の振興、また人材育成の機会となるということも願ひまして、高砂市美術展を開催いたします。今現在、美術協会等の協力を得まして、運営委員会を開催しまして、実施に向けての協議をしているところでございます。

25ページ、3-2-7ですけれども、市民アンケートの実施ということで、市民アンケート調査を実施しまして、今後の施策に活かしていきたいなというふうに考えておるところでございます。

平成27年度の途中経過については以上でございます。

○会長

ありがとうございます。今ご説明があったわけなんですけれども、何かご質問、ご意見を賜ればと思います。先ほど、委員の方からありました件は、後でまた取り上げたいと思いますけれども、何かほかにもございますでしょうか。

○委員

11ページですが、一番下に図書館「えほんのじかん」「おはなし会」とかあります。これ今やってることですけれども、新しい図書館になって何かやるというのは、まだつかまれていますか。

○事務局

3日の日に、図書館の内覧会がありまして、ちょっと見させてもらいました。そこで、実際新図書館の様子も見せていただいたんですけど、同じく絵本とかお話しするスペースも設けられておりまして、そこで説明やお話を実施するということでした。また多目的ホールもありまして、そこで講演会なども行う予定だというふうに聞いております。

○会長

よろしいでしょうか。

○委員

31ページですが、宍粟市との交流なんです、非常に手前みそなんです、マイクロバスで今年3台行きました。俳句協会。現地の人と句会をしました。それから、その中の1回は、11月3日、ついこの間ですが、宍粟市の俳句大会がありまして、市長が来てました。すぐ帰られて、議長は挨拶したりして、ちょっと残っておられましたけども。それと、11月12日に向こうから12名来ますので、のじぎくの里を見に来ますので、日笠山のほうに案内しようかなと思ってます。うちのメンバーと交流しようかなと思ってます。以上です。

○会長

はい、ありがとうございます。宍粟市とは高砂市つながりですかね、何かで。

○事務局

そうですね、楓香荘ですね、その辺のPRについて、広報への掲載やちらしの配布などをやっています。また、宍粟市の特産品の発送、受付、それと芋ほり体験といった事業があります。それを広報紙を通じてPRさせていただいています。

芋ほり体験など、1回行かれた方には、それぞれまた宍粟市のほうから各個別に行かれた方に案内がいていると思うんですけども、それ以外の新規の方をこちらで受け付けています。毎年10件ぐらいは新規の申し込みがある状況でございます。

○会長

はい、ありがとうございます。

ほか何かご質問とかありますか。

○委員

A3の8ページ、A4の17ページ、2-2-7、日本三奇観光パートナーシップ。これによって、県外とパートナーシップをPRして、こういうことを書かれていますけども、宮城県あるいは宮崎県とどんな連携をとって、石の宝殿の件もある、どう観光をPRする計画なのでしょうか。

○事務局

日本三奇パートナーシップなんですけども、日本三奇ですね、石の宝殿、四口の神釜、天の逆鉾、それにつきまして、日本三奇観光パートナーシップを結びまして、そこでの協定書では、観光情報を提供することとか、また行事とかイベントのときに、特産品の流通とかについて協力をしましょうということが、そこで掲げられております。それぞれ各市町も観光協会も観光や物流情報などについて協定を締結して、今後また交流を深め、またそれぞれお互いの発展を目指して行動していこうということでございます。

○会長

具体的に平成27年度は何をされたんですか。あるいはまだされてないのであれば、何をされる予定。

100万円予算が計上されてますね。

○事務局

アスパで日本三奇展が、今年度行われました。

○会長

そういう事業をされてるといことですね。よろしいか。

○委員

はい。

○会長

何か、もしアドバイスとかあれば、よろしいでしょうか。

それじゃあ、委員、はいどうぞ。

○委員

A4の33ページの真ん中、5-1-3、観光マップ（ガイドブック）、観光マップを作成し、配布することにより高砂市のPRや誘客を図るのですが、平成27年度、平成28年度、平成29年度とも廃止になっているんですね。現在は、お客さんが来るたびに何か資料を送ってくれとか、資料はないかとか言われるんですね。そのたびに私、家では写真撮りまくって、それを渡すことが多いんですけども、せめてガイドマップとか、そういうのをつくってもらえたら、まあ、今まであったものももう品切れになったから、それだったら増刷するというなら、いや、予算がないからできないとか、もう、次のを考えているので、これはもう廃止になりますとかいうて、それで実際には、お客さんに渡すのが全くないという、今そういう現状なので、何とか、個人的なお願いなんですけど、ここではもっと考えないかんのやけど。

○委員

高砂駅に、高砂のマップとかはあるんですか。

○委員

いろいろな食べ物情報などがありますが、町中を案内するためのガイドマップは、加古川など行くと、物すごくいろいろな種類のがたくさんあるので、姫路へ行ってもそうだけど、高砂には今は使えるものがないです。

○事務局

ここの観光マップは、産業振興課、観光協会がつくっている通常の観光マップでなくて、昨年度60周年で観詰BOOKという冊子が、昨年度はつくられていたので、要はそれを平成26年度につくったので、その年度だけのことであって、全くそのマップとかをつくるのが廃止とかじゃなくて、その平成26年度の観詰BOOKいう、カラーのきれいな冊子が実はできてたんですけども、それは特別につくったので、それが、あと廃止ということになっているんです。そのときだけの特別のマップです。

○委員

我々は、金によるバックアップよりもそういうものをつくってもらって、それをお客さんに配布する。それが一番ありがたいんですけどね。

## ○会長

ありがとうございます。今現状どういう観光マップがあるのか、ちょっと観光都市と若干ずれるところがございますけども、そういうものはまた適宜、ちゃんと情報をご提供いただいて、せっかく文化の振興に役立つようなまち歩き等、書いてるわけがございますので、どういうふうにこういったところ、支援していくか、ちょっと情報提供がございましたら、そのあたりよろしくお願ひしたいと思います。

ほか、いかがですか。

## ○委員

質問と提案です。

14ページの2-1-5の高砂ゆかりの人物の生誕・没後記念事業で、謡曲「高砂」ゆかりの、世阿弥作とかをNHKで取り上げてもらって、前後に謡曲「高砂」が流れて高砂市がPRされるというようなことを目標に、NHKにプッシュしてほしいという提案が一つ。

それと右のページの市史編さんの事業なんですけど、確かに立派な本でお金がかかってるから買ってほしいということもあると思いますが、ぜひ、ホームページとか、そういうところで開示をしてもらいたい。それを自由に見てもらって、高砂をもっともっと知ってもらおうとか、その中に過ちがないかもしれないかもしれませんが、新しいことが出てきたりして、改善もされていくのではないかなという意味で、開示できないでしょうか。

## ○事務局

昨年観阿弥生誕の680年で、世阿弥生誕650年で、そのときは多分全国的にいろんな展覧会や特別な事業があったりとか、そういったのがテレビで報じているのは見たことがあります。

## ○委員

次に、17ページの、文化資源ということで、高砂マラソンのメダルを竜山石にしたと聞きました。せっかくの委嘱状なので、初めてもらうときは、竜山石の賞状でもらえたら、大変値打ちがあつて、「よっしゃ、やったろう」という気になるかなと思います。2回目以降は置く場所の問題も出てくるでしょうから、紙でかまいませんが、一番初めは、高砂市らしいそういうのをどこかで予算化してもらって、委嘱状とか、表彰状とかをできるだけ竜山石を使って、アピールしてもらえたらということが一つです。

それと同じページの先ほどのCDの配布の件ですが、この評価の仕方の問題点にもつながるんですけど、これで△になったり、CになったりBになったりしたことをどう評価するかいうところで、前年度450件でいろんな条件があつてできなかった、それを新年度150件にしたら、この150件は150件で達成しましたよとか、160件になりましたよといったら、多分評価はAとかSですよ。でもこれは今現状何名来られたかわかりませんが、本来、100件だったのが150件あったら、伸びてるんです

が、そうじゃないと、せっかく文化というかCDを広めるのが目的であるとしたときに減ってるわけで、どちらかといえばこれは△ではないかと思います。評価するときにごう考えるかで、目的と評価が一致してないと思うんですね。ですから450は450に向かって、高砂のシンボルだということで、できるだけ謡曲「高砂」を広めたいと考えているのならば、この辺はもうちょっと考えたほうがいいんじゃないかなと思います。

それと、アートタウンプロジェクトに関連しての質問ですが、高砂町の保育園の跡地ですが、まだ使っているんでしょうか。

○副市長

今は、空き施設になってます。

○委員

そこの利用の事で、アートタウンプロジェクトに私も参加しているんですけど、商工会議所の方から意見があると思うんで、後ほど言っていただきたらと思います。

それと23ページ、3-1-8、SEA SONIC、産業振興課の件ですけど、毎年やられて、私ちょっと行けてないんですけど、盛大にやられてると思っています。事業目的に、あらい浜風公園を若者音楽のメッカになるように推進するというように掲げられていますが、メッカになるようにということは、日常的に使えるということを考えてるのかわかりませんが、日常的であれば、そういう施設があっそう掲げているのか、それであればそういう何か仕組みが必要と違うのかなというふうに思って、継続で次は未定となっているのでは、これでメッカになるのかなというふうな気がします。

それと、ぼっくりんを最近見ないような気がして、国から補助がなくなったから、ウォーターを売って補助しますということで、そこはとりあえず民間としては、やられているのかもしれませんが、市のシンボルで市政だよりにいっぱい「ぼっくりん」が載っていたのが、急に出なくなったような気がします、やはり市の姿勢として、青年会議所がつくったから、青年会議所のものじゃなくて、市が、もっともっとゆるキャラでアピールしないといけないことだと思っています。その辺の予算がどこかにあがっているのか、「ぼっくりん」というと結構人が集まるので、大事なことかなと思います。

それに伴って、14ページの2-1-5、待受音楽の「月の沙漠」ですけど、ぼっくりんの歌にする、「ぼっくり〜ん」とか電話口から流れてくると結構高砂市が受けるんじゃないかと、いや、本当に、冗談じゃなくて。そんな感じで、「月の沙漠」ももちろん大事なんですけど、もっともっとゆるキャラの「ぼっくりん」をアピールしておもしろい市だなというようなこともできたらと思うんです。あくまでも提案です。

それと、商店街の活性化事業で、チャレンジショップというのが産業振興課でやられてると思うんですけど、その辺は関係ないんでしょうか。何か載ってないなと思いました。以上です。

○会長

ありがとうございます。ちょっとアートタウンプロジェクトが若干あったんですけど、

もし、つけ加えがございましたら。

○委員

月に1、2回商工会議所でアートタウンプロジェクトをしているんですけど、委員会の方から高砂町で子育て支援センター、今何も使われてないんです。市民の方から言われて、借りてと聞いてるんですけども、そこはちょっとお聞きしましたら、将来的には壊して売却という予定だと聞いたんですけど、地元の方とか、できればそこにアートタウンプロジェクトの本来実施のアーティストを呼んできて、あそこで活動してもらえたらという提案を入れているんです。具体的にこんなことをしたいというのは、今ちょっと委員会の中で検討してますので、まだはっきりとは言えないんですけども、一応、自治会からの要望書をつくって、また提案させてもらいたいと思ってますので、よろしくお願い致します。あそこは、そのまま市民に開放していただけたらと思ってるんですけど。

○会長

今委員から幾つかご指摘とご質問が一部あったので、もしお答えできることは手短にお願いいたします。

○事務局

市史を知らしめることなんですけども、市史ができるまでの間に、広報たかさごのほうで、市史にまつわる高砂のことを市史編さんの専門の先生がコラムみたいな形でつくられてたのがありました。それもホームページに載ってたのかどうかわかりませんが、せっかくそういうのもあるので、ホームページに載せるのは費用もかかからないので、そういうことで市史の内容とかももっと広く知らしめることとかはできるんじゃないかなとは思いますが。

それと竜山石の話なんですけども、賞状とかを竜山石でもらえるとか、そういうご提案ですけども、この1月にあります高砂市美術展につきましては、美術展の賞状をここでは竜山石でつくったもので今考えております。新たに市の美術展を再開するに当たって、高砂の特色を活かしたいということもありましたので、運営委員会でいろいろ協議しまして、それなら賞状を竜山石のものをつくったらどうかという提案もありました。それに向けて実際動いてるところで、1月にできるんじゃないかなと考えております。

CDを広めることについては、先ほどのご指摘ありましたとおり、また検討していきたいと思っております。

それと電話の待ち受けですけども、平成25年度から「月の沙漠」をやっているんですけども、このA3のほうでは7ページで、2-1-5で、総務課の電話待受BGMのところなんですけども、「月の沙漠」が今実際、待ち受けになっているんですが、60周年記念に、「わがまち高砂」という新しい歌ができましたので、それはやっぱり広めたいということで、実際平成27年度から「わがまち高砂」に待受音楽の変更を総務課のほうで検討しているところがございます。まだ今、ちゃんとしたものができてないらしくて、作業に向けて検討をしているというところがございます。

「ぼっくりん」の件なんですけども、当然、「ぼっくりん」をどんどん活用していきたいということで、せっかくのゆるキャラですので、このたびの今年度の高砂マラソンにつきましては、従来ゲストランナーを呼んで一緒に走ったりとかしてたんですけども、このたびご当地キャラを集めたご当地キャラ超ミニマラソンというのを計画しまして、「ぼっくりん」とか「てるひめちゃん」とか、近隣のご当地キャラを集めたレースを実施して、またアピールしていこうという予定でございます。

#### ○会長

大体よろしいですか。後、先ほどの最初に実は、別の前の事項、目標の書き方ですね、その部分、A3の3ページのところの、謡曲「高砂」の目的のところを機会を設けるといっただけではなくて、それができると書いていただこうかと。例えば謡えるとか、そういうほうが目的ではないかという、これが多分ご趣旨じゃなかったかと思っておりますので、その機会を設けることが目的でなくて、謡えるのが目的だろうというような目的の書き方がどうかというところもありましたので、これは平成28年度以降、少し目的の書き方については、ほかの報告も含めて、ご検討いただければというふうに思っております。

ほか、何かございませんか。

#### ○委員

非常に寂しい思いをしているんですが、もちろん森はなさんやら「月の沙漠」ですね、作曲家の佐々木すぐるさんとか、それから謡曲ですね、もちろんもっともっとアピールしていくということ大事だと思うんですけど、現に文化を大切に、ふるさとを愛する人が集うまち高砂なんですけど、ここに芸術という言葉が入ってない。

また、若者イコール、ポピュラーとも限らないのに、ポピュラーとかダンスのメッカというのは入っているんですが、しっかり音楽を勉強している人たちの発表の場が本当になんかありません。実際問題、そういう人たちが育っているんです。ほかの市に行くと、演奏させていただくという形が結構多くて、本当に演奏する場をつくらうとすると、やっぱり非常に費用がかかりますし、私なんかはもっともっと頑張らないといけないと思うんですが、音楽家協会さんが今年は演奏会をなさいましたけれども、芸術を一生懸命勉強している若い人たちが本当に育っています。そういう人たちが市役所のロビーコンサートであったりとか、病院でも演奏できる機会があるようになってきたようなんですけど、神戸のほうでしたら、本当に神戸市が費用を出して、いろんな所に音楽家を派遣するというふうな活動もなさっておられますし、もう少しちょっと芸術性の高い音楽もこの中に、そういう言葉が出てくるとうれいなというふうに思います。これって、謡を謡わせたり、音楽とかいろんなことに親しませて、子どもたちを育てて、そういう人たちが育った後、高砂市のために活動してくれる場所、本当に謡いでもみんながコンクールでもしようかというふうになってくる。もっともっと歌が好きな子が増えてくる。もちろん吹奏楽は盛んですけれども、結構団体だと活動はできるんですが、個人レベルになると、文化連盟にも所属できないし、助成金ももらえないし、個人的な活動ができ

ない。売名行為だと言われてしまったりとか、そういうふうなまだレベルなんですね、感覚が。ですから、そのあたりでもうちょっと本格的に勉強している人たちをバックアップして、よき指導者となっていただけるような、何か方向性というものがあればうれしいなと思います。

教育委員会のほうで、後援をもらうにしてもコンサートするにしても、何か個人ですると、売名行為だろうと言われてしまう。で、公民館も借りにくい。ピアノもそんなにある場所がない。市民の人たちややっぱりいいクラシック音楽を聴くと、ああ、よかったとおっしゃるんですよね。有料コンサートだったら、赤ちゃんとか幼児は入れないわけですよね。妊婦さんも子どもさんだっこしている方は、そういう方こそ本当に音楽を聴いてもらいたいんだけど、迷惑になるから入れない。やっぱり小さいときからいい音楽に触れるというそういう場というんですか、そういうところもつくっていかなきゃいけないと私自身も思うんですけれど、なかなかやっぱり場が、場所がないというところで、ぜひともホールを建ててくださいということはよう言いませんが、ちょっとしたサロンのなところというのも高砂市は本当にありませんので、何かその辺、ちょっと考えていただけたらうれしいと思います。

#### ○会長

はい、ありがとうございます。

#### ○委員

もう一つわからなくて、気になってるんですけど、短く言います。

謡いの話あるんですけども、高砂のための子ども、人間じゃなくて、教育から見たら、一人一人の子どもの成長というか、発展というか、感性というのになるわけだから、その高砂市としての観点もそうやけども、子どものやっぱり個人のどう成長なのかという観点からもちょっと考えていただきたいというふうにして。

もう一つは、今委員も言われましたけれども、活動する場所を場、ないんですね。単に集う場もないですよね。わいわい言う場所というか。この前も言ったと思うんですけども、その場もお願いしたい。

後、文化いうたら、やっぱり量と質があると思うんですよね。量いうのは人間がたくさん集まる。セミナーやったら、文化のレベルはどうなる、質も大事だと。どっちやということじゃなくて、質を上げようと思ったら、やっぱり量もないと、人が集まらないと質もしぼんでくる。両方大事かという気もしています。先ほども言いましたけども、非常に項目が多いですよね。これを全部、文化スポーツ課がスタッフも少ないし、なのにこれ全部これ、今の一つ一つ答えを私個人の意見ですよ、回答していくのは、我々ちょっと無理があると私は思います。だから、もっとそれなら、会長いらっしゃるわけだから、この中でもっと整理をして、どこが大事なのか、どこをやっていったらいいのかという、何年かやってきてますから、大分もうこういう項目的なものは、集まってきてると思うので、それをちょっと整理をして、もっと文化スポーツ課の質的な仕事をして



ただで、当然会長と相談していくということが大事かなと。各課に対しては、もう指導という、言葉悪いかどうか、こうしてくれと。それで文化スポーツ課がせなあかんことはしていただくという形で何かこうしていただけたら、ぼちぼちその時期かなという気がしますので。感想です。

#### ○会長

ありがとうございました。ちょっとその教育上の問題も若干ございましたので、もし教育委員会のほうから先ほどの委員に対するお答えがありましたら、いかがでしょうか。もちろん、この今高砂の謡曲の話だけでも・・・・・・・・ですけれども、先ほど当然当たり前の話だと、教育の効果というところの話も出たと。何かありましたら、お願いできますでしょうか。

#### ○事務局

確かに、委員おっしゃいましたように、子どもの成長のための教育、文化、スポーツであるべきであるというふうには考えております。そういった中で、義務教育、幼児教育等、その辺の底上げは出していく必要があるというふうに思っております。

また、公民館等の使用とかいうお話もございましたけれども、ちょっと私その辺、認識が不足してございまして、いろんな公民館、登録グループさん等々を中心とした公民館活動をしていただきまして、社会教育の発展に皆さんそれぞれ尽力していただいておりますけれども、そのあたりもう一度また確認もいたしますけれども、より多くの方々にご利用いただき、生涯学習がより実り多いものになるように、発展することを私どもは考えております。

#### ○会長

ありがとうございます。公民館は生涯学習の場でもあるんですが、先ほど委員がおっしゃった今後の新しい公民館のあり方、集う場、あるいは図書館も新しくなるわけですから、そういったものがどう集う場をつくっていくのかというのは、ソフトウェアの問題ですので、そこのところは少し考え方を変えていけば、今ある資源を使いながら集う場はつくれると思います。先ほど委員がおっしゃったように、個人では公民館の部屋を借りるのは、なかなか難しい現状でございますから、そういうものは少し運営を変えていくことで、もしかしたら変わることがあるかもしれませんので、そこはちょっと教育委員会はご検討いただけるということでございます。

なかなか新しいホールをつくるのか、今の時代ではなかなか難しい中で、今あるものをどうやって使っていくか。例えば、公民館の中の1室をピアノが弾ける、お琴を・・・するようなものをスペースを設けるとか、手はいろいろ考えられると思いますので、またご検討いただきたいというふうに思います。

何か、ほかにご意見ございますか。大体、よろしいでしょうか。

#### ○事務局

副市長のほうが所用のため退席いたします。

○会長

ごめんなさい、長時間になって、なかなか終わらなくて申し訳ない。

○副市長

途中で申し訳ないんですけど、ちょっと予定入ってまして、申し訳ございません。

○事務局

ありがとうございました。

○会長

議論白熱で、すみません。失礼しました。

○副市長

すみませんが、あと、どうぞよろしくお願ひします。すみません。

○会長

もう終わらなきゃいけないのに、すみません。

あと、よろしければ、この項目はこれで終わらせていただきまして、先ほど、幾つかご意見いただきました点につきましては、平成28年度の今後、計画をつくるときにも、十分反映できるところは、たくさんあったかと思ひますので、再度、また事務局内でもご検討いただきたいですし、もうそろそろ予算作成の時期ですよね、後々。そろそろかなり積みかえてると思ひますけども、非常に有意義なご意見だったと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それからその次でございますけども、4番で文化施策に関する市民アンケートについて、これもちょっと簡単に、これももう既にお送りさせていただいてたんですね。お願ひできますでしょうか。

○事務局

文化振興アンケートですけども、文化振興基本方針の見直しを、また文化振興の評価検証の一つとしても、今年度中に実施することとなっております。前回、いろいろご意見いただきまして、兵庫大学のほうにお願ひしているところで、今その案のほうが可能ですので、またそれにつきまして、皆さんのご意見いただきたいと思ひますので、ぜひ、どうぞよろしくお願ひいたします。

○会長

既にご意見いただいたもの、どこかにありましたかね。

○事務局

はい、このアンケートについて、今日配らせてもらった中で、市民アンケート（案）に関する意見ということで、幾つか意見を既にいただいております。問26で永田耕衣は高砂の人ですか。選択肢の順番を、「文化・場所・人・もの」とまとめて提示するほうがわかりやすいのでは。じょうとんばホール、市ノ池公園、総合運動公園、各公民館における文化まつり等も掲げるべきでは。市民のみなさん分からないのでは。「その他」にひとくくりにし内容を書かせるのは無理があるのでは。高砂ゆかりの人物も多数

いるので掲げておいたほうが選択しやすいのでは。現在取り組んでいる文化等、例えばアートタウンプロジェクトがある等細かく掲げてもよいのでは、という意見をいただきました。

○会長

ほかにも何か、もしお気づきの点で、どうぞお願いいたします。

○委員

問2ですけども、あなたがこの1年間にホール・劇場、映画館、美術館、博物館、これは高砂市内に限るのか、あるいは市外も含めるのかというのが、私が答えを書こうとしたとき、その辺が迷ったんです。

それで、表のほうを見たら、高砂市における文化振興についてご意見を伺いますだから、あっ、これは高砂市内でのホールとか劇場とか映画館、それに行ったことがあるかどうかという問いかなと思って、あとずっと見ていってたら、問3を回答した方では、高砂市内とか高砂市内のほうが多い、市外のほうが多い、市外も含むということなので、この問2の中に、高砂市外を含んでのというのをひと言入れないと答える人が答えにくいと思います。

○委員

だから何のためにアンケートをとるのかなというように思いましたね、一つは。だから今言われたように、美術館・博物館・映画館ないですよ。何でこんなアンケートとりにきはるのか。また、博物館をつくってくれるのかどうか。市では、もう箱物はつくらないという大きな原則があるように聞いております。そうすると何なのかという気はしましたね。

○会長

ありがとうございました。

○委員

それと、1番から30番まで項目がいっぱい書いてあるんですけど、これをここへ挙げた基準というのは何かあるんでしょうか、というのは、例えば神社、高砂神社とか生石神社、鹿鳴神社皆あるのに荒井神社がない。お寺もですね、十輪寺があって、時光寺がないとか。大体同じようなことがその建物の中で、ここへ入ったり入ってなかったり、えらいひいきかなあという気がせんでもないんですけど。この出る基準というのは何かあるんですか。

○事務局

そうですね、これ、事前に26についての意見がいろいろありまして、なかなか市民がわからないんじゃないかとかいう意見もありましたし、今出ている分は、前回アンケートをとったとき、その他の欄で高砂のことについて記述してもらったものがあつた、それを並べてるだけのものです。何が基準かということですが、前回のアンケートに出たものを出してるだけのもので、ちょっと偏った形になっていて全部は網羅できてない

というふうなところです。

○委員

ちょっと納得できん。

○会長

もし、あれだったら、書いていただくようにして、何もここを選ぶのではなくて、書いていただくという方法もございますので、こちらちょっと一遍検討していただきたいと思います。

○委員

書いていただくときに、多分なかなか出てこないということで例を挙げておいたら良いと思います。例えば神社、お寺や人物、それから物産品とか、そういうことだけでも書いてあげたら、ああ、神社やったらこんなところあるとか、何も書いてなかったら、実際のところ何を書こうかなとわからないと思います。何もなしでは多分求められてることは出てこないと思いますので。

○会長

あとは、もしご指摘がございましたら。

これは、もう今日中にご意見いただく。

○事務局

一応、11月中には。

○会長

12月中には、アンケートをとりたいというぐあいに、そう考えると、もう今日中。

○委員

2のところですが、これちょっと私、この意見書でも書いたんですけど、やっぱりジャンルとか演奏形態がごっちゃになってるかなと。ポップス、演歌とか、また合唱、演奏形態になってくるので、例えばジャズ、クラシックとか、ポップスとかそういうふうには並べるのであるならば、合唱は演奏形態のほうに入って、オーケストラ、室内管弦楽等のほうに入ってくると思うんですけど、ソロや楽器アンサンブルとか吹奏楽とか、何かそこら辺の区切り方がごちゃ混ぜになっていると思います。洋楽、邦楽とかね。

○事務局

一応、ちょっと直してはみたんですが、まだちょっと難しいでしょうか。また見ていただければ。

○委員

ポップス、演歌と並べるんだったら、ジャズ、クラシックと並べないと、合唱というのは演奏の形態ですから、合唱の中でクラシックやったり、ポップスを歌ったり、ジャズを歌ったり、その合唱という形態でやりますから。

○会長

また確認させていただきます。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょう、何か。

じゃあ、ちょっともし今日中ということなので、今日の夕方、夜遅く、もしメールかなんかでもファクスなんかでもお送りくださいましたら、また送りつけください。

それであと最後なんですけど、その他のところになるんですが、今後なんですけども、一応今ここで、高砂市の本年度の実施ということで、できれば12月の末を締切にして回収して、本年度中には集計したものを皆様のお手元にお渡ししたいというふうに思っております。

それから、次のその他なんですけども、ちょっと1番は飛ばさせていただきまして、今後のスケジュールについて事務局のほうからお願いできますでしょうか。

○事務局

今後のスケジュールなんですけど、今日の会議につきましては、平成25年度、平成26年度の検証、また平成27年の途中経過、平成27年度事業ですね、ご説明させていただいたんですけども、また来年度以降に、文化の振興について、平成28年度以降の事業について、また皆様からのご意見をいただきたいと思っておりますので、第2回目の審議会のほうでお願いしたいと思っております。できれば、日程調整等お願いします。

(日程調整)

○事務局

会長と調整させていただいて、その情報をまた委員さんの皆さんに送りますので、またそこで都合のいい日、悪い日をまた伺わせていただいで決定させていただくということで。それでご理解いただきたいと思っております。

○会長

皆様本当にご意見いただきましてありがとうございます。

それでは、いったん進行を事務局にお返しします。

○事務局

ありがとうございました。

では、最後に副会長、簡単にあいさつをお願いします。

○副会長

(副会長 あいさつ)

○事務局

それでは、これもちまして、高砂市文化振興審議会を閉会いたします。皆様、お疲れさまでございました。

ありがとうございました。

(午後 5時55分 閉会)